



2022-2023 クラブ役員	
会長	今城 高之
直前会長	辻 剛
書記	岡田 美和
会計	横田 孝久

### 今月の聖句

「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。  
今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。  
この方こそ主メシアである。」  
ルカ2・10-11

《会長ご挨拶》本来、本例会でご挨拶をすべきところ、今月はその機会がないため、この場を借りて年末のご挨拶を申し上げます。依然としてコロナ禍が続く中、お互い何かと不自由を感じながらも、クラブメンバーの皆様のご協力により、様々なクラブ活動が行えたことを心より感謝します。特に、三年ぶりで「移動例会」、「You & I コンサート」が開催できたのは大いなる成果であったと思います。一方、Y'sダム最大の課題である「会員増強」が進んでおりません。残る半年間に皆様のご協力を頂いて、目標の達成に邁進したいと思っています。（今城T）

### 《巻頭メッセージ》

### 「もろびとこぞりて」とブロークン・ハート

相賀 昇



年のクリスマスが近づいてまいりました。クリスマスの讃美歌

の定番のひとつといえば「もろびとこぞりて」（讃美歌(21)261/[ I ]112番）があります。教会に行ったことのない方でも、おそらくこの曲はどこかで耳にし、聞き覚えがあることと思います。作詞者はフィリップ・ドッドリッジ(Philip Doddridge)です。ドッドリッジは1702年にロンドンの油商人の子として生まれますが、幼い日に孤児となってしまいます。周囲の助けがあってやがて牧師となった彼は400もの讃美歌を書いたのですが、その最も有名な讃美歌「もろびとこぞりて」を後世に残してくれました。

讃美歌112番の3節をみますと「しほめる心の花を咲かせ、めぐみの露おく主はきませり」あります。「しほめる心」と、とても美しく文学的に訳されていると思いますが、原文のほうは実はたいへん生々しく厳しい人間の深い内面を歌っています。大塚野百合先生が「もろびとこぞりて」の直訳を紹介してくださっているので、その3節を引用します。「主は、破れた心を包み、血がしたたる魂を癒されます。そのみ恵みの宝をもって、心が低い貧しい人々を富ませたまいます。」大塚先生はこの直訳の詩を紹介された後こう書いておられます。「この第3節の『主は、破れた心を包み、血がしたたる魂を癒されます』を文字通りに訳せば『主は、



ブロークン・ハート (the broken heart) に包帯をし、血を流している魂を癒されます』となります。」

ドッドリッジは幼い日から病弱でやがて結核を患い苦しんでいました。それでも彼は驚くほど献身的で、超人的とも言える働きをしています。具体的にどんな破れを持っていたかまでは分かりません。いずれにしてもその破れへの癒しを頂いていたからこそ、その病との戦いに耐えながら、その働きを忍耐強くなし遂げることができたのではないのでしょうか。

この讃美歌にはイエス・キリストというお方が、どのような方であったかがよく示されています。キリストは言われました。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」(マルコ2・17)と。キリストはまさにブロークン・ハートに包帯をし、血を流している魂を癒すためにお生まれになったのです。この一年、世界にもそしてひとりひとりにもほんとうにいろいろなことがありました。だれもがはたからは見えないブロークン・ハートを、血がしたたる魂を持っています。今年のクリスマス、同じブロークン・ハートを持った人のこの歌に聞き、この歌をご一緒に歌い、そしてその心に包帯が巻かれてまいりますように。「しほめる心の花を咲かせ、めぐみの露おく主はきませり」。(完)



《例会報告》

2022年11月度本例会

岡田 美和 記

日時：2022年11月25日（金）17:00~19:00

会場：かけはし都筑

司会：鴨下純久 受付・報告：岡田美和

出席者：相賀、今城T・H、大野、岡田、鴨下、  
鈴木S、辻T・T s、横田（10名）

ゲスト：岩田芳晴さん、岩田由江さん、徳江久代さん

1. 開会

1) 開会点鐘 今城会長

2) ワイズソング・ワイズの信条 一同唱和

2. 今月の聖句祈祷 相賀チャプレン

3. ゲスト・ビジター紹介 大野

4. 会長挨拶 今城会長

5. 卓話 卓話者：岩田芳晴さん

演題：パンダン水道建設プロジェクト

～現地での逸話～

卓話者は総合商社“丸紅”で国内外のビジネスに従事してこれ、退職後に民間の国際協力団体・公益社団法人アジア協会アジア友の会に入会されました。そこでフィリピン・パナイ島の小さな町パンダンへ行き、深山の湧水を約10キロ離れた町まで引いてくる水道設備を**住民と協力して**作られ、その折の逸話を話されました。



(卓話者の岩田芳晴さん)

着工して間もなくは、住民たちの心にこびりついた戦争中の悲しく辛い記憶と日本人への感情が無意識に爆発したり、住民の日本人を見る目は厳しいものがありました。

ともにシャベル、ツルハシを持って汗を流しました。徐々に住民たちも和らぎ、笑顔で声をかけてくる人が増えてきました。また作業の合間をぬって小学校を訪問し、子どもたちに折り紙を教えたり、「原爆の少女・佐々木貞子と千羽鶴」の英訳本を担当の先生に読んでもらったりしました。子どもたちは涙を流し、校長先生は「多くの日本国民も戦争の犠牲者であることに気付いた」と語りました。工事は**住民との協力**で無事完了し、町の中央広場には墓碑がたてられました。裏側に「祖国のために戦いこの地で倒れた日本兵たちの冥福を祈る～日本とフィリピンの平和を愛する人たちが建立」と刻まれました。

6. 協議・報告事項

1) 第10回記念“You & I コンサート”  
(11/12)の振り返り

- ・今回の参加者は390名に上り、特に障がい者が多かったのが評価される。時期によるものかその他の要因によるものか精査の要あり。
- ・障がい者や子供たちが参加する舞台上の行進や歌劇「桃太郎」はみんなが楽しく盛り上がった。
- ・生演奏はやはりよかった。
- ・第10回を区切りとしてコンサートの今後の進め方、例えば無料化などの検討してはどうか。
- ・当日準備の集合時間は遅くてもよいのでは。
- ・来年の実施は11月を第一希望とする。

2) 今後の行事予定

12/13（火）事務例会@夢Café：

クラブ・クリスマスではプレゼント交換を行う

12/17（土）YMCAクリスマス礼拝

14:00~15:30 @日本キリスト教会横浜海岸教会

1/10（火）事務例会：総会準備（役員人事）

1/27（金）本例会：クラブ総会

7. YMCA報告

・12/6（火）Y-Y's協議会：つづきクラブ担当

司会：今城T、辻T s、鴨下が出席、Zoom

・「横浜北YMCAまつり」が皆の協力により無事終了。

・12/4（日）港北区防災：仮設トイレの使い方。

8. アピール・スマイル

・TKB（今城H）12/21（水）誕生日カードづくり

・社協（横田）災害ボランティアネットワーク「ペット」

・スマイル

9. 閉会点鐘



(かけはし都筑での例会—もう少し参加者が増えますように！)

《会議報告》

第96回Y-Y's協議会

2022年12月6日(火) 19:00~20:20

横浜YMCAとY'sメンズクラブ湘南・沖縄部との協議会が、当クラブの担当により開催されました。年4回開催の協議会は今回が96回目、と言うことは、24年間続いてきたこととなります。この長きに渡って地域のYMCAとY'sとが協議会を運営してきた例は他に見ることはなく、とりもなおさず、横浜YMCAとY's湘南・沖縄部の信頼と結束が如何に強固なものであるかの証左と言えましょう。

さて、毎回の運営は各Y'sの持ち回りで行われており、今回は当つづきクラブの順番でした。また、時節柄、今回の会議はZoomによるオンラインのみということとなりました。

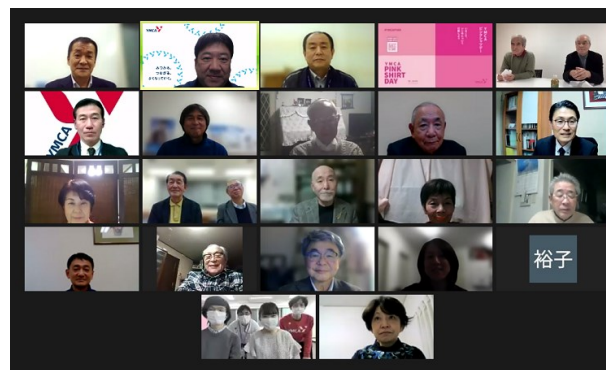
協議の概要を如何に記します；

鴨下主事（北Y館長、つづきクラブ担当）による聖書朗読、祈祷の後、今城つづきクラブ会長の議長のもと協議に移る。

- 1) 佐竹横浜YMCA総主事は挨拶の中で、コロナ禍が続く中、諸般厳しい中ではあるが、スタッフ、リーダー協力の下最大限の成果を上げていることを報告。
- 2) 小松湘南・沖縄部長は、YMCAとの様々な協働プログラムに参加して、双方が強い絆で結ばれていることを実感したと述べた。
- 3) YMCA/Y's合同新年会については、明年もコロナ感染状況の終息が期待できないことから休会とすることで合意。
- 4) さる9/30-10/2の日程でY'sの支援で開催された

ユースボランティアリーダーフォーラム（@山中湖キャンプ場）には東日本区各地よりリーダーが参加したが、横浜YMCAから参加したリーダーによる報告があった。各参加者より、YMCAの諸活動への理解、ワイズ活動への理解が促進したこと、各地のYMCAがそれぞれの特色を生かした素晴らしい活動を行っていること、各地のリーダー達との素晴らしい交流が出来たこと等が感謝と共に述べられた。

- 5) 横浜YMCAの国際チャリティーランが無事終了し、当初の目標が達成できたことが報告され、湘南・沖縄部の協力に対して謝辞が述べられた。
- 6) 次回協議会は明年3月7日（火）19:00より横浜つづきクラブが担当して開催されることが合意され、閉会した。（今城T 記）



北Y便り

横浜北YMCA 館長 鴨下 純久



11月21日からカタールで「2022FIFAワールドカップ」が始まりました。この原稿はベスト8進出チームが決まった後に書いています。残念ながら日本代表はクロアチア代表にPK戦で敗れましたが、今大会もたくさんの感動を与えてくれました。サッカー好きの私は、日本代表戦のみならず、多くの試合の観戦を楽しんでいます。現地からの映像では、観戦者はノーマスクで声を出して応援する光景が映し出され、コロナ禍であることを全く感じません。日本も早くマスクの必要のない日が訪れることを待ち望んでいます。

さて、11月はイベントが続き、3日に「北Yまつり」、12日に横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブと共に運営した「第10回YOU&Iコンサート」がありました。いずれも3年ぶりの開催となりましたが、多くの方々と楽しい時間を過ごすことができました。「北Yまつり」は先月号で報告した通り、ワイズの皆さまに「のみの市」の運営を中心にご奉仕いただきました。「YOU&Iコンサート」は、2020年4月から館長を務めている私にとっては、初めてのコンサートでした。ボランティア

を含め400名近くの来場者がありましたが、運営を担当した横浜YMCAのスタッフからは、口を揃えて心温まる素晴らしいコンサートであったとの感想が聞けました。

そして、12月6日は3ヶ月に1度開催している「YMCA-Y's協議会」がありました。この会議は、各ワイズメンズクラブが順番に担当するのですが、今回は横浜つづきワイズが担当となりました。会の中で「東日本YMCAユースボランティアリーダーズフォーラム」と「第25回横浜YMCA国際チャリティーラン」の報告を受けました。この秋に開催したいいくつかのイベントを通して、YMCAとワイズメンクラブが共に手を取り合い、地域のために、そして青少年のために活動できたことを本当に嬉しく思います。この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともさらに充実した活動ができることを願っています。

時節柄、どうぞお身体をご自愛いただき、素敵なクリスマスをお過ごしください。

《連載寄稿》

恥ずかしのワイン蘊蓄 ～15～ 最終稿

横田 孝久

アドベントに入りました、本当に1年が早く、コロナ禍中は何もしないでクリスマスです。しかし、そんな中でも、それなりにY'sの活動やYMCAとの協働も出来、このシリーズも続けてこられました、本当に感謝です。その原動力は老体の自分を支えてくれた皆様のおかげと感謝しています。ありがとうございました。

しかし、何と言っても美味しい飲み物（ビール・日本酒・ワインなど）が日毎の薬として支えてくれました。改めて乾杯です。

特に幸せな時間を与えてくれるワインこそ最高と感じます。かつて飲んだワインの香りや味わいは今でも比較的良好く覚えています。どこで飲んだかなど、余り記憶がないのも不思議です。多分ワインが主役だったので、周りの記憶が飛んでいたかも。様々なタイプのワインがあるし、それをどう飲むかは人それぞれの好みです。自分の気に入ったやり方が一番で、他人にとやかく言われる筋合いはない。



幸せな時間を与えてくれるのが、高価、安物など関係なく最高のワインです。「ワインは知れば知るほど好きになる」と言われます。ワインを知ることはワインの楽しさを理解すること、ワインは楽しむものです。余計な知識はいりません。

でも、少し知っておくだけで今まで以上にワインを楽しむことができます。こんな事をだらだら書いているのは今回で最終回にしようと思ったからです。

今やワインは世界中どこでも醸造され売られて皆が飲む時代ですが、小生の経験は本当に少なく、まだまだ経験したことがないワインが多くあり過ぎます。南アフリカ・オーストラリア・ニュージーランド・などなどがあります。これから少し味わってみようとも思っています。それぞれの地域でそれぞれの土地の状況（テロワール）で何種類ものブドウが栽培され、造り手が努力しているので、どこまで小生が味わえるか楽しみです。そして手前みそですが、ポルドーやブルゴーニュのビンテージワインがほんの僅かですが我が家のセラーにあります。もったいなくて、なかなか飲むのをためらい（躊躇し）ます。根っからの貧乏性かもしれません。しか

し、残された短い人生ゆえ、そんなことを考えずに栓を開け楽しもうとも思っています。

ソムリエはプロです、知識や味、蘊蓄は当然です。飲みも出来ないワインの蘊蓄を色々云われても理解できない事が多い、ましてや素人の飲み手が知ったかぶり知識をひけらかしては鬱蹙（ひんしゆく）を買います。あまたあるワインの種類、地名、値段、そして生産者のキャリア、ワインの香りの様々な表現を知るということはワインを楽しむ上で大切でもある。ただ、それも度を越し過ぎると問題です。ワインは文化と言われるが、ワインを飲む事で文化人になれるわけでもありません。要は目の前のグラスにワインが注

がられれば多種多様な色や香りが飲み手の心をときめかせる。一口飲めばそこに先ほどから言ってるように造り手や土地など様々な光景が目に見え、人の心を緊張させると同時になごませ、官能的で理知的な気分になることができます。これはワイン以外の酒では見られないと

思います。ワインは飲む者にいろいろなことを思いめぐらせるが故に、ワインは文化的だと思います。小生は！

本当に15回もくだらないワイン話を読んで頂いた事、感謝以外に何もありません。

普段も特別な日も、一人の時、皆でワイワイの時も、少し覚えた知識をめぐらしながらワインを楽しんでくだされば、こんな嬉しいことはありません。何だか寂しさがこみ上げてきませんが、今宵はちょっと上のクラスでじっくり味わいながら飲むとします。（完）

追記：読者の皆様でご意見や感想があれば頂きたいです。何せ文章能力は何もなくだらだら寄稿したままです。すみません。あればクラブの今城会長あてに送ってください。

（今城さんにはイラストなど校正も含め大変お世話になりました。）





### 《TKBお仕事会》

東日本大震災被災地への寄り添いプログラムの一環として始めた、宮城県亶理郡山元町の高齢者施設（みやま荘）と保育所（つばめの杜保育所）へ手作りバースデーカードをお届けするプログラムの推進役であるTKB（Tsunami Kawaii Bachans）は今月も静かに集まり、小声でおしゃべりしながらの作業を行いました。

お届け先の一つ、「つばめの杜保育所」から寄せられたお手紙を見ると、園児たちはバースデーカードが届くのを大変楽しみにしてくれているようで、その笑顔を思い浮かべての作業は力も入るし楽しいものです。

当然のことながら、今の園児たちはあの震災を知らない子どもたちですが、あの当時（2011年）被災した子どもたちは今どうしているのでしょうか。一番小さかった園児でも小学校6年生になっているはず。コロナが終息し、また現地にお訪ねできる日が来たときには、そんなことも伺ってみたいと思います。

子どもたちも、もちろん、みやま荘のご老人たちも、お元気でよいクリスマスをお迎えになるよう祈って止みません。

### 《トピックス》 Y-Y's協働の成果



（第10回You & Iコンサートボランティア結団式の様子）

この写真は、先月号の本誌にも掲載したのでご記憶の方も多いと思いますが、去る11月12日に開催した、当クラブ恒例 You & I コンサートのボランティア開会式の時のものです。赤いビブスをまとっているのか、近隣の横浜YMCA施設から参加してくれたスタッフ、ボランティアの方々に、この方々なしではコンサートの開催は難しかったと感じています。また、コンサート会場では、YMCAとワイズ協働の一環で募金活動も行われました。募金額合計は77,877円で、そのうち40,000円が当クラブからのウクライナ募金へ、37,877円が横浜北YMCAの国際地域協力募金としてそれぞれ捧げられました。（TI 記）

### 《特別寄稿》 「キャロル」

川端純四郎著「さんびかものがたりⅡ この聖き夜にアドヴェントとクリスマスの歌」日本キリスト教団出版局より：

キャロルと言えばクリスマス・キャロルというのが日本の常識ですが、実は、イースター・キャロルもあれば、ペンテコステ・キャロルあります。もともとは輪になって踊る踊り、あるいはそのための音楽のことだったようです。中世のヨーロッパのことですから、民衆の踊りは、全てキリスト教のお祭りの時に行われます。クリスマス、イースター、ペンテコステ、収穫感謝あるいは聖人の記念日等々です。歌詞は、当然聖書の物語です。ですからキャロルは、宗教的な歌詞を持った楽しい踊りの歌というのが、いちばん基本的な意味です。

やがて、クリスマスのような特別な礼拝の時には、礼拝の中でも歌う機会が与えられて、単なる民謡ではなく、典礼にも用いられるようになりました。（中略）

フランスからイギリスに渡って、キャロルという名で広く愛されましたが、17世紀のピューリタン革命でいったん中断します。ピューリタンは厳格な聖書主義の原則に立って、聖書に根拠のない教会行事は全て廃止します。12月25日のクリスマスも聖書にはありませんから廃止されました。キャロルも禁止されました。禁止されたキャロルが再び歌われるようになったのは、19世紀になってからのことです。農山村でひそかに歌い続けられていたキャロルを、学者たちが「再発見」して紹介したのです。本当のキャロルとは関係ないのですが、ディケンズの「クリスマス・キャロル」という小説も、キャロルの復活に一役買いました。今では、踊りから離れて、合唱音楽として、世界中で愛唱されています。



《例会報告》

2022年12月度事務例会

岡田 美和 記

日時：2022年12月13日（火）17:00~19:30

開場：夢Cafe/みんなの家

司会：今城高之会長 報告：岡田美和書記

出席者：今城T・H、大野、岡田、鴨下、鈴木K・S、辻T・Ts、横田（計10名）

1. 開会点鐘・黙祷 今城高之会長
2. 会長挨拶 今城高之会長
  - 記前半を終えるに際し、コロナ禍の中ではあったが、会員全員のご協力の下、想定以上の活動が出来たことに感謝する。
  - 本日と1月の事務例会にて①You & I コンサートの進め方 ②クラブ役員の選任とクラブ活動の進め方、の2点につき frank な意見交換をしたい。先ず本日はコンサートについて話を進める。
3. 審議・検討事項
  - 1) You & I コンサートの運営について
    - 記念すべき第10回 You & I コンサートを成功裏に終えた。障がい児、障がい者、高齢者の参加も多く趣旨にふさわしかった。
    - 初回より演奏してくれた横浜室内合奏団の演奏内容・選曲等の評判も良かった。
    - 今後もコンサートは継続開催する。次回の演奏グループは、横空を筆頭に、それに代わりうる演奏者も模索する。本コンサートの良い点の継続が可能なように慎重に演奏者を選定する。
    - 次回は2023年11月18日（土）が内定した。
  - 2) コンサートの財政（支援金受給と入場料）について

- 各方面よりの支援金受給の在り方、ならびに入場料について検討したい。
  - 完全無料化との意見もあるが、演奏者への謝礼を確保することを考えると現実的ではない。
  - 料金体系の簡素化も進めたいとの意見も多く、全入場者500円均一とする案、18歳以上の健常者（一般券）1000円とする案が有力。運営委員会にも諮り最適な料金体制を検討する。
- 3) 運営委員会の構成（現5グループ）について
    - コンサートの趣旨に合致する新たな参加団体を募ってきたい。
    - 例えば「えだ福祉ホーム」へ働き掛ける。
  - 4) その他
    - 改めて You & I コンサート開催の経緯、趣旨などをよく知ってもらうため案内チラシ裏面を活用しては如何かとの案が出され、次回から実施するよう心がける。
  4. クラブ役員の選任ならびに運営については次回の事務例会で継続審議する。
  5. 今後の行事予定
    - 12/17（土）横浜YMCAクリスマス礼拝
    - 12/21（水）TKB誕生日カードづくり
    - 1/10（火）事務例会
    - 1/27（金）本例会・クラブ総会
  6. プチ「クリスマス会」～プレゼント交換～
  7. 閉会点鐘

（11月実績）

例会出席者	13名	在籍会員数	16名
メンバー	10名	月間出席者	10名
ビジター	0名	メーキャップ	1名
ゲスト	3名	月間出席率	69%
各種記録			
スマイル	9,000円	年度累計	30,000円

《クラブ会計よりのお願い》

クラブ財政逼迫につき、2022-23年度後半の会費納入は出来るだけお早めをお願いします。振込先は以下の通り。

横浜銀行菊名支店 口座番号：1330228

口座名：横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ

り来▽まがうとも着ワす成きたやしま▽  
お年一す1▽申届しイ。・ま▽例たいコ  
祈が年。9手しき。ズ特提しブ会るまロ  
り皆間何8前てま毎にに出たりの違ナ  
し様のか号みおす月は、し。テ開和たに  
てにごいでそり。楽格1て寄ン催感が明  
いと愛い、でま筆し別5く稿もがが、け  
まつ顧企来はす者み感回れ者なでなウコ  
すてに画年あがにに謝続たのんきくイロ  
。良心が2り、はしいけ方皆とたなズナ  
いよあ月まど単てたて々さかこりコに  
年りれ号すう行いし寄にん毎と、ロ終  
なおばががも本まま稿は、月はリナわ  
り礼ご2、そにすすしお会の嬉ア、る  
まを提0ブのし！。て礼議発シルの年  
す申案0リ気で、愛く申報行いの試と  
（編集子）  
よしく号テはみの読れし告がこイみな  
う上だとなてお者た上を達とべにつ  
心げさな今さは便も横げ作成でんもて  
よ、いり号そ？り定田ま、でしトさし

編集後記